

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和 7 年 8 月 1 日に 2025（令和 7 年）度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（2025 年 8 月～12 月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元にした本県海域の予報をお知らせします。

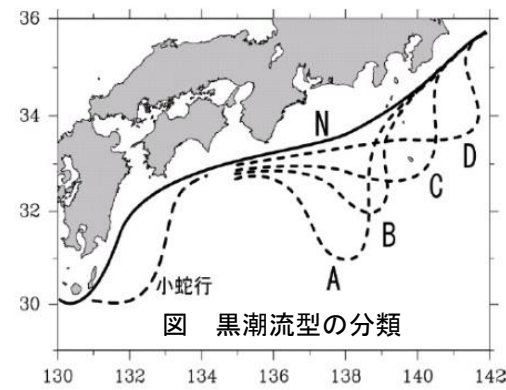
■ 海 況

黒 潮：黒潮は潮岬以西では小蛇行の発達に伴い離岸傾向で推移し、潮岬以东ではC型基調で推移するものの、9～10 月にかけて一時的にA型となる可能性がある。

（説明）4 月中旬まで A 型流路の大蛇行が継続したが、4 月下旬に大蛇行部が切離し、非大蛇行流路となった。6 月以降、蛇行が再発達し、8 月下旬時点で C 型となっている。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時に「極めて高め」となることがある。伊豆諸島海域は「極めて低め」～「平年並」で推移し、一時的に「高め」となることがある。

（語句説明）平 年 並：平年値±0.5℃程度
高 め：平年値+1.5℃程度
極めて高め：平年値+2.0℃程度



■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

来遊量：不漁であった前年並みの低水準で推移する。

（説明）神奈川県沿岸でのマサバの漁獲量は引続き低水準で推移しています。資源量は減少し始めたと評価されたとはいえ、まだまだ高い資源水準にあるマサバですが、2025 年も本県沿岸への供給源である伊豆諸島海域への産卵のための南下は少なく、1～6 月のたもすくい網での漁獲は極めて低調でした。一方のゴマサバは資源量自体が低レベルで推移しており、伊豆諸島海域でも、相模湾沿岸の定置網でも漁獲量は少なくなっています。

これらのことから、昨年に引き続き東京湾～相模湾に 8 月以降来遊するマサバ・ゴマサバが大きく増加する要素は見当たらず、厳しい予測となりました。

2～6 月の伊豆諸島周辺で「江の島丸」が行った調査から、魚体サイズはマサバ：尾叉長 31～36cm（体重 350～600g）、ゴマサバ：33～35 cm（400～600g）が主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：低調である平年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量が 2010 年以降増加しているほか、黒潮大蛇行によって産卵親魚が伊豆諸島海域に来遊するようになり、神奈川県沿岸でも 1～5 月は漁獲量が高く推移しています。一方で、6～12 月の漁獲の主体はヒラゴ～小羽サイズであり、0 歳魚の漁獲量は低い傾向です。

本県における 2025 年 1～6 月の主要定置網漁獲量は前年の 45%、平年（過去 5 年平均）の 41%と減少し、近年の傾向から 8～12 月の漁獲量は低調である平年並と考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：低調である平年並

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004 年以降減少しており、特に沖合域における減少が顕著になっています。魚体サイズは体長 12cm 以上の大型成魚が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となっています。

2025 年 1～6 月の主要定置網漁獲量は前年の 138%、平年（過去 5 年平均）の 29%と減少し、過去 5 年間の 8～12 月漁獲量は数トンのレベルに留まっていることから（秋季に一時的に解消した 2020 年を除く）、今漁期の漁獲量も低調である平年並と考えられます。



■ マアジ

来遊量：前年並～下回る。

（説明）マアジ太平洋系群の資源量は増加傾向にあり、相模湾の定置網漁獲量も 2022 年以降増加しており、相模湾における資源水準は中位・増加と考えられます。相模湾(西湖)定置網の 2025 年上半期の漁獲量は、豊漁であった前年(2024 年)並みでした。また、例年と比較すると大型のマアジが多く、1 歳魚に加え、2 歳魚以上のマアジが含まれる割合が高かったと思われます。一方、同期の銘柄ジンダ（当歳魚）は、突出して多かった 2023、2024 年よりは減少しましたが、近年では高い水準でした。上半期の銘柄ジンダ漁獲量と下半期のマアジ漁獲量には正の関係が見られることより、上半期のジンダから予測した 2025 年下半期の漁獲量は、2023、2024 年を下回ることが予測されますが、豊漁であった 2023 年級群の残存資源を加味して、前年並～下回ると予測します。

